

令和4年度学校評価（保護者、職員）に対する園の自己評価

令和5年1月31日

学校法人佐賀学園神野こども園
園長 宮崎 祐治

◇今年度は、昨年度よりアンケートの質問項目の文言に修正や変更を加えた項目があり、さらには、昨年度と違って保護者の回答を最長兄姉に変更した点もあるため、昨年度の数値と単純には比較できない面もあるのではないかと考える。そのため、昨年度と若干低い数値であっても、今年度の評価は昨年度とほぼほぼ変わらない範疇にあると許容できると思われる。

◎ 保護者の評価結果より

- ・昨年度より数値が大きく下回った項目は、12番の「保護者との連携」と13番の「環境整備」である。
- ・昨年度より若干ではあるが、数値が上回った項目は、1番の「園の方針・保育の内容」の中の「遊び込みによる主体性、創造性、社会性の育みと人と関わる力の育成」と8番、9番の「健康推進、食育推進」、さらに、16番の「教職員の対応」の中の「職務にふさわしい服装、節度ある行動」である。

◎ 職員からの評価結果より

- ・昨年度と同様に全体的には保護者からの評価よりも若干低い数値ではあるが、昨年度と比較すると24項目中19項目は上昇している。
昨年度より低かった項目は、4番の「園の方針・保育の内容」の中の保育の研究・研修を日常の保育に生かす」と11番、12番の「情報の伝達・公開」の中の「クラスだよりの紙面づくりの工夫」、「情報の可視化」である。

◎ 保護者、教職員の両者の評価より

- ・「教職員としての対応」「教職員の規律性・信頼性」「園のサービス」の3分類の項目がいずれも高い数値である。

◇以上のことから、下記のような考察を行った。

- 昨年度は大きな課題として改善が求められた「食育への取り組み」や「安全対策指導」は、数値の上昇から見て、かなり改善が認められたと思われる。
- 保護者からの本園の教職員の対応や規律性・信頼性、園のサービスや園の方針、保育内容の数値が高かったことは、園や教職員の評価が高い水準にあると思われ、嬉しい評価をいただいた。
- ▲ 課題としては、保護者との連携のさらなる効果的な在り方やより分かりやすい情報の可視化の仕方、環境整備の充実などがあげられる。

来年度は、好評価をいただいた項目や昨年度とほぼ変わらない項目の減少がないように、引き続き取り組みを継続、強化をしていくことと保護者への保育内容や情報の可視化にさらなる努力と工夫を講じなければならないと考える。

そして、保育環境の整備や清掃にも力を注いでいきたい。